

神田神保町の店舗前空間の利用に関する研究 ～地域組織と地域ルールに着目して～

都市空間生成研究室
1641099 高山 元気

神保町 古書店街 店舗前空間
地域ルール あふれ出し 専門店街

1. 研究の目的と背景

本研究は、神田神保町の古書店街において現在の店舗前空間の利用実態や特徴を明らかにし、店舗前空間の利用に関するルールに着目し地域ルールの現状を分析するそのうえで、今後神保町古書店街をどのようにマネジメントしていくかを考察し、街並みの維持・向上の一助となることを目的とする。

神田神保町では明治 10 年代から学生街が発達したことを機に古書店街も盛んになった。今でも地域にはおおよそ 180 店が集まる世界有数の古書店街を維持している。しかし、建築物の老朽化がみられる神保町では今後建物更新が必要となり、新たな店舗の出店などが考えられる。また、現在の神保町の魅力の一つでもある街路に沿って並ぶ店舗前のあふれ出しが、セットバックをした建物になることや駐車場入り口が設けられることによる路面店の間口の縮小による景観の変化が予測される。街が変わり続ける中で神保町らしい街の魅力存続が課題となっている。

2. 研究の方法

本研究では、神田神保町における店舗前空間の仮設什器のあふれ出しの実態と特徴を明らかにするために 3 つの方法で調査した。さらに、店舗前空間の利用をどのようなルールを基に地域としてまとめ維持しているのか、地域ルールの実態をヒアリング調査により明らかにした。

- ① 仮設什器のあふれ出し実態調査
- ② カード分類調査による仮設什器の類型化
- ③ 東京都心の他同業集積商店街との比較
- ④ 神田古書店連盟の高山肇氏とスポーツ店連絡協議会の角谷幹夫会長へヒアリング調査

3. 神田神保町の店舗前空間の利用実態調査

3-1. 用語の定義

本研究では、古書店の仮設什器のあふれ出しの実態や特徴を明らかにしていく上で、建築物が敷地境界から下がって立地している。この敷地内の空間と歩道に跨って仮設什器が設置されているため、図 1 が示すようにこれ

らを総称して店舗前空間とする。

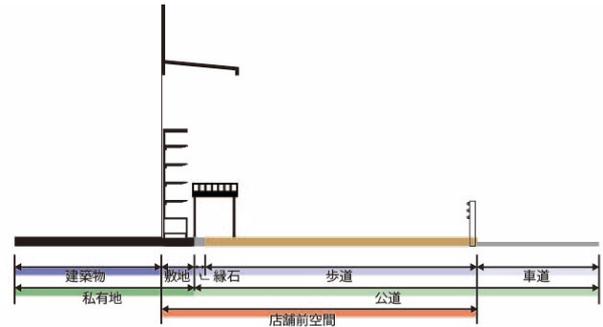


図 1. 店舗前空間の図説

3-2. 仮設什器のあふれ出し実態調査

神保町の街路空間を賑やかに演出している一要素である店舗前空間の仮設什器の実態を把握するために、靖国通り（駿河台下交差点～専大前交差点）における 1 階 61 店舗を対象に写真から測定した。このうち古書店・書店 41 店舗では、2 店舗以外であふれ出しが確認でき、各古書店のあふれ出し幅の平均は約 410mm であった。大幅にあふれ出ししている店舗も見られたが、靖国通りの歩道幅員がおおよそ 6m あることから歩行空間は十分に確保されており、古書店街に一律なあふれ出しがあることが実態的に明らかになった。

3-4 神保町のあふれ出しの特徴

表 1. 同業集積商店街における比較表

	神保町	秋葉原電気街	かっぱ橋道具街
あふれ出しの量	中	多	中
あふれ出しの幅	大	小	中
商品の大きさ	中	小	大
業種による違い	古書店<その他	電気系<アニメ系	食器<調理器具、什器
客目的	店舗で探す	欲しいもの決まっている	商店街で買物、回遊目的
通過人口	多	多	少
歩行速度	速	中	遅
建物形状	ビル路面店舗型	売店型	商店街シャッター型
建物形状			

調査②より、建物の形状（入口の数やドアの開閉状況）・あふれ出しの量や幅・仮設什器の種類が主にあふれ

出し方に影響を与えていると考えられた。

また、歴史資料より 1912 年から 1962 年ごろまでの建物の開口部が大きく、店内商品が歩道の近くまであり、店内外の関係性が強く歩道にあふれ出す必要がなかったと思われる。それに比べ現在は建物の気密性や本の保存状態向上のために、ガラスや壁で歩道空間と仕切られて扉を開けて専門書の店舗に入る形式である。より多くの人に本を手に取り購買して貰うためにも店舗前空間に仮設什器で本を陳列して、専門店への接触の難易度を下げている。調理器具や飲食店什器など外気でも保存できる商品を専門とするかっぱ橋道具街では現在も多くの店舗の開口部が歩道上に開けており、狭い歩道上には商品があまりあふれ出していないことがわかる。



図 2. 1940 年高山本店付近 図 3. かっぱ橋道具街

4. 地域ルールと地域組織の実態

4-1 神田神保町における地域ルール

高山肇氏へのヒアリング調査により、店舗前空間の仮設什器のあふれ出しには歩道上で 60cm までという自主規制ルールがあると言われていることが明らかになった。このルールは神田スポーツ店街でスキーブーム最中の 1995 年に歩道へのあふれ出しが多く、土日祝日特に混雑していたため歩行障害になることから警察指導を受けたことが始まりである。この余波が古書店街にも来て話し合いの末に自主規制ルールが作られたと言われている。一方で神田スポーツ店街では、これを機にして地域内業種組織として神田スポーツ店連絡協議会が設立され、きれいな街へと変わった。

4-2. 地域組織の関係性

古書店街では古くから構築された店舗間の信頼関係があり、神田スポーツ店連絡協議会が出来た当初から組織として確立されており、警察への対応で大きく差が出ていたことがわかる。現在では神田スポーツ店連絡協議会も複数のイベント開催をしており、機能性を上げている。神田小川町においては、角谷さんが町会と商店会の 3 つのレイヤーで信頼を得ていることによりそれぞれの組織を繋いでいると考えられる。

地域の中には複数の組織が存在しており、商業的な商店会や業種組織と地域住民の集まる町会や地域活性化組

織では、人の属性や組織の目的がそれぞれで異なり、関係性を良好に築くことは難しいと考えられる。

5. 結論

本研究の調査において、神保町古書店街の店舗前空間には、仮設什器が歩道上にもあふれ出しがあるという実態が確認され、書物を扱う専門店街ならではのあふれ出しであることが明らかになった。さらに、このあふれ出しは 60cm まででは出して良いという自主規制ルールが古書店街の中でのルールとしてあると言われていることが明らかになった。このルールの維持には、業種が集積していること、老舗が多いこと、人望のある人がいることなどが考えられる。今後、建替えが発生し様々な条件が変化していく中で、まちの魅力であるファサードが揃い並ぶ古書店街で店舗前空間の利用状況も変わっていくと考えられる。

あふれ出しという魅力に限らず街が変わり続けていく中で街の魅力を維持・向上していくためには、複数ある地域組織を一つにまとめる神保町まちづくり会議（仮）が必要ではないかと考える。この組織が一つのパイプになり、神田神保町ならではの、建築上のルールや営業上のルールなどの共通認識を持つ地域ルールを作成していくことが大事であると考えられる。

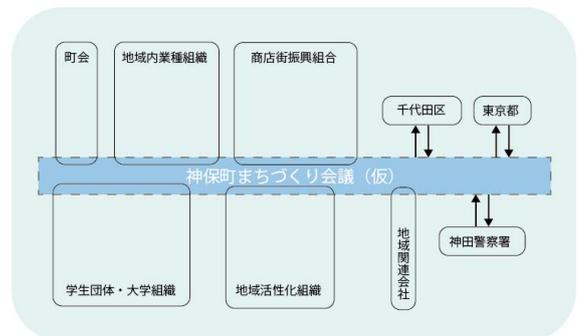


図 4. 地域をひとつにまとめる組織案

参考文献

- 1) 中内和・山田啓二郎・川崎雅史：下北沢の商業系街路空間を巡る地域的ルールの形成に関する研究，土木学会論文集 D1（景観デザイン），Vol. 71，No. 1，pp. 116-132，2015
- 2) 佐藤洋一，あの日の神田・神保町：写真と地図でたどる：昭和 25 年から 30 年代の思い出と出会う，2008 年，p. 10-11
- 3) 小原美穂子・遠田敦・渡辺仁史：神保町古書店街研究「あふれだし」に特化した古書店ファサードの魅力解析，日本建築学会大会学術講演概集，2007